

大阪府立中之島図書館 大阪資料・古典籍室 第50回小展示

平成14年11月1日(金)～平成15年1月17日(金)

えいりねほんのせかい 絵入根本の世界

絵入根本とは歌舞伎の台帳(脚本)を印刷刊行したもので、多くは絵入りであることからこの名称がついています。

上方独自のものでその最初は天明4年(1784)に出た『思^{おも}花街容性^{わかくさぎ}』です。最盛期は文化から天保期であり、最後の刊行は明治6年(1873)の『其^{その}いろどりとうきのこうえき^{えき}』です。その多くは大阪の書肆河内屋太助店から出版されています。



『絵本傾城佐野の船橋』

本文形式は台帳と同様で、せりふと書、舞台書まで整うものですが、多少の省略や場割の変更などもあり、配役も実際のものではなく物故者が入っていたりで出版当時の理想を表した物になっています。挿絵は役者似顔絵で舞台面の図が多く、冒頭には極彩色のものが数葉入り、各冊挿絵が入るなど、当時流行の兆しにあった読本の様式に倣っています。

元禄期の頃より歌舞伎の絵入り筋書き本が刊行されていましたが、筋書きだけでは満足を得られず、より詳細な台帳を読みたいという読者の要求の高まりがあり、まず貸本屋が台帳の写本でその求めに応じていたのが、量的に応じきれなくなった時、出版という形に変わっていったのではないかとされています。完全な台帳の翻刻とはいえませんが、それまで門外不出であった台帳の刊行が行われたことは歌舞伎界にとっては革命であったといえるでしょう。

現存は約70種といわれていますが当館ではその内46種を所蔵しています。今回はその一部を紹介します。

展示資料

『大岡裁判獄門金蔵』 勝彦蔵著 写 9冊

朝日 252-68

歌舞伎台帳と言われるもの。脚本。

芝居が単純なものであった頃は必要ではなかったが、芝居が複雑になり上演のための帳面として覚書や控を書き留めたのが始まりといわれる。

これは明治期のものである。

『宿無団七時雨傘』 やどなしだんしちしぐれのからかさ 並木正三著 松好齋半兵衛画 [享和2(1802)] 上・中・下 1冊
252-162

題簽:「絵本戯場栞」

初演 明和5年7月大阪角の芝居。

『戯場言葉草』 しばいことのはぐさ 松好齋半兵衛画 享和3(1803) 5巻5冊 朝日 252-13

初演 天明4年正月大阪角の芝居で「思花街容性」の題で上演、「戯場言葉草」は根本の題。

並木五瓶作。所載の番附は享和3年正月京吾妻徳次郎の再演のもの。

享和3年正月京都で上演された時、根本として刊行したと、序文「根本通言記」にある。全部舞台造物の画で役者の口絵はない。

『忠臣連理鉢植』 ちゆうしんれんりのはちうえ 松好齋半兵衛著・画 上・下2冊 252-216

初演 天明8年2月「義臣伝読切講釈」大阪大西芝居で上演。

「忠臣連理の鉢植」はこの義臣伝の三幕目と四幕目が独立したもの。作奈河七五三助、並木正三、辰岡萬作。

『契情笈伝授』 けいせいほこでんじゆ 並木意院松 文化4(1807) 1冊 252-134

内題:「絵本戯場語」

初演 文化元年正月、大阪角の芝居「けいせい箱伝授」

全巻画ばかりで文字は小さく雲形のなかにせりふをいれ、様式上他の絵入根本と異なっている。

『戯場壁生草』 しばいいつまでぐさ 松好齋半兵衛画 文化5(1808) 6巻6冊 朝日 252-23

初演 寛政6年5月京西の芝居「五大力恋緘」

『文月恨 切子』 ふみづきうらみのきりこ 春好齋北洲画 文化7(1810) 上・中・下1冊 252-204

角書 昔の古手今の新物

初演 明和元年8月大阪中の芝居。並木永輔作。

浄瑠璃、三味線、長唄等を含めていずれも文化初年頃の人気俳優を番附にあげている。舞台を裏側から観客の方に向かって描いた画がある。

『定結納 爪櫛』 かみかけてちかいのつまぐし 狂画堂蘆洲画 文化12(1815) 4巻2冊 朝日 252-25

題簽:「必ずあふと後の文 添て送りし一品は神かけて誓爪櫛」

初演 文化11年8月大阪角の芝居。奈河晴助作。

所載の番附は初演時のものであろう。その序に「角の芝居の新狂言に取り組み作者春陽堂の蔵書なるをひたすらこいもとめ且は幕数多くて出ざる場もおぎない画工蘆洲先生の筆働を加へ居な

がら舞台を見るが如く・・・」とある。

『文化11年8月朔日 大阪角の芝居芝居番附』 974-2
前狂言 比良嶽雪見陣立 切狂言 定結納爪櫛
座元 市川善太郎

『^{えほんさんじっこくよぶねのはじまり}絵本三拾石 艦 始』 暁鐘成画 文政4(1821) 6巻1冊 朝日 252-24
初演 宝暦8年12月大阪角の芝居。並木正三作「三十石艦始」

『^{おそめひさまつうきなのみうり}於染久松色 読販』 四世鶴屋南北著 歌川国貞画 天保2(1831) 4巻6冊 252-150
初演 文化10年3月森田座
番附は初演時と文政3年大阪中の芝居。かつら師友久郎の像、七役早代わりの衣裳を仕立てる
図、駕抜の切穴を詠る花道の図等ある。上方出版の多い絵入根本の中で作者も画工も江戸で出
版だけが大阪である。

『^{けいせいちごがふち}契情稚児淵』 柳斎重信画 天保3(1832) 7巻7冊 朝日 252-16
番附題 姉恋路妹通路「けいせい稚児淵」
初演 天明2年正月京都山下座。筒井半二作。

『^{かたきうちうらのあさぎり}敵討浦朝霧』 奈河晴助著 春江斎北英画 天保5(1834) 7巻7冊 朝日 252-20
初演 文化12年9月大阪中の芝居。
所載番附に網干右兵衛之助を故人嵐吉三郎としてあるがこれは初演の時好評を得た二代目吉
三郎である。

『^{えほんけいせいさのふなはし}絵本傾城佐野の船橋』 南々川貞広画 天保9(1838) 7巻7冊 朝日 252-2
初演 寛政元年12月大阪中の芝居「けいせい佐野の船橋」奈河七五三助作。補助亀輔

『^{いもせのくるまき}妹背通転』 浅山蘆国画 天保13(1842) 3巻4冊 朝日 252-14
初演 享和2年5月大阪中の芝居。近松徳三作 狂言題「京羽二重新雛形」
彩色挿絵お花半七道行の場が見開両面にありそれを左右に開くと三幕目舞台が四面に描かれ
「京羽二重新雛形」の看板が見える。

『^{はやりうたながさきみやげ}雑唱歌長崎土産』 狂画堂蘆洲画 天保13(1842) 6巻7冊 朝日 252-29
初演 享和2年1月京北側芝居「拳禪廓大通」

『^{そのいるどりとよきのこうえき}其粉色陶器交易』 佐橋富三郎著 白水広信画 明治6(1873) 3巻3冊 朝日 252-10

初演 明治5年11月京都北側芝居。

口絵初演時の配役と同じ。スマイルの「セルフ・ヘルプ」を中村敬宇が訳した「西国立志篇」からの翻訳劇である。最初の散切物であり、絵入根本の最終出版といわれる。

参考文献

『歌舞伎図説』 守随憲治、秋葉芳美撰 万葉閣 1931 あ-154

『演劇百科大辞典』 早稲田大学演劇博物館編 平凡社 1960 970-609

『歌舞伎年表』 伊原敏郎著 河竹繁俊・吉田暎二編集校訂 岩波書店 1973 971-155

『日本大学図書館蔵 根本目録』 日本大学図書館 1964 011-899

『江戸の演劇書-歌舞伎編-』 赤間亮編著 早稲田大学
内博士記念 演劇博物館 1991 774-31N

『岩波講座 歌舞伎・文楽 第4巻』 岩波書店 774-83N

「文運東漸と大坂書肆小攷」 山本卓著 (『文学』2000年9・10月号所収)

「絵入根本目録(未定稿)」 須山章信著 (『青須我波良』16号所収)

中之島図書館蔵 絵入根本一覽

- あずまくだりごじゆうさんつき
『吾孀下五十三駅』 玉塵園雪住著 長谷川貞信画 [安政2(1855)]
5巻後編7巻(欠6巻)11冊 朝日 255.6-5
- い が ごえのりかけかっぱ
『伊賀越乗掛合羽』 安永6(1777) 5巻5冊 252-136
- いもせのくるまき
『妹背通軛』 浅山蘆国画 天保13(1842) 3巻4冊 朝日 252-14
- えほんあねいもうとだてのおおきど
『絵本姉妹達大礎』 [浅山蘆国画] 天保13(1842) 2冊 朝日 252-5
7冊 252-146
- えほん がなよつ やかいだん
『絵本いろは仮名四谷怪談』 春梅齋北英画 天保5・6(1834・1835) 5巻後編5巻4冊 朝日 252-70 『
- えほんかかけはしものがたり
『絵本花楓秋葉話』 松好齋半兵衛画 6巻6冊 朝日 252-9 『
- えほんかわさきおんど
『絵本川崎音頭』 鉄格子編 松好齋半兵衛画 4巻2冊 朝日 252-26
- えほんけいせいさのふなはし
『絵本傾城佐野の船橋』 南々川貞広画 天保9(1838) 7巻7冊 朝日 252-2
- えほんけいせいひめはじめ
『絵本傾城飛馬始』 暁鐘成画 文政7(1824) 7巻10冊 朝日 252-1
- えほんこがねのしやちほこ
『絵本黄金鱗』 春好齋北洲画 天保13(1842) 7巻7冊 朝日 252-19
- えほんさんじつこくよぶねのはじまり
『絵本三拾石燈始』 暁鐘成画 文政4(1821) 6巻1冊 朝日 252-24
6巻6冊 252-148
- おおもんぐちよろいがさね
『大門口鎧襲』 暁鐘成画 文政9(1826) 7巻2冊 朝日 252-8
- おそめひさまつうきなのみうり
『於染久松色読販』 四世鶴屋南北著 歌川国貞画 天保2(1831) 4巻5冊 朝日 252-4
4巻6冊 252-150
- かたきうちうらのあさぎり
『敵討浦朝霧』 奈河晴助著 春江齋北英画 天保5(1834) 7巻7冊 朝日 252-20
- かたきうちかねのつづみ ぜんべん
『敵討高音鼓前編』 梅窓園貞芳画 天保12(1841) 5冊 252-152
- ちかいのしがらみ
『かたきうち義恋柵』 春梅齋北英・五蝶亭貞広画 天保8(1837) 5巻後編5巻10冊 朝日 252-18
- かみかけてちかいのつまぐし
『定結納爪櫛』 狂画堂蘆洲画 文化12(1815) 4巻2冊 朝日 252-25
- きりたろうてんぐのさかもり
『霧太郎天狗酒宴』 暁鐘成画 天保13(1842) 7巻1冊 朝日 252-27
- くつなおいわらべきょうがく
『鞋補童教学』 佐橋富三郎著 白水広信画 明治6(1873) 3巻3冊 朝日 252-3 252-138
- くわなやとくぞういりふねばなし
『桑名屋徳蔵入船噺』 暁鐘成画 文政5(1822) 7巻1冊 朝日 252-30
- けいせいあそやまざくら
『契情遊山桜』 貞広・貞芳画 7巻後編6巻(欠前編卷6・7後編卷6)10冊 252-200
- あまのはごろも
『けいせい天羽衣』 柳齋重春画 天保4(1833) 7巻7冊 朝日 252-15
- さつまぐし
『けいせい挾妻櫛』 柳齋重信画 文政13(1830) 7巻7冊 朝日 252-17
- すおうのだいり ママ
『けいせい素袍珞』 柳齋重春画 文政14(1831) 7巻8冊 朝日 252-12
天保13(1842) 7巻7冊 252-140
- けいせいちごがふち
『契情稚児淵』 柳齋重信画 天保3(1832) 7巻7冊 朝日 252-16
- けいせいこでんじゆ
『契情篋伝授』 並木意院松 文化4(1807) 1冊 252-134

- 『傾城倭莊子』
けいせいやまとぞうし
 天保 13(1842) 6 冊 252-142
- 『契情会稽山 前編』 五蝶亭貞広画 天保 13(1842) 7卷7冊 252-208
けいせいゆきみるやま
- 『猿曳門出諷』 天保 13(1842) 2卷1冊 朝日 252-28
ざるまわしかどでのひとふし
- 『戯場壁生草』 松好齋半兵衛画 文化5(1808) 3 卷 4 冊 朝日 252-23
しばいいつまでぐさ
- 『戯場言葉草』 松好齋半兵衛画 享和3(1803) 5 卷 5 冊 朝日 252-13
しばいことのはぐさ
 文化3(1806) 5 卷 5 冊 252-144
- 『劇場菊の戯』 松好齋半兵衛画 文化元(1804) 2 冊 252-214
しばいきく たわむれ
- 『春景浅茅原』 笑門亭編 浅山蘆国・喜多川北麿共画 文化5(1808) 6卷6冊 252-212
しゅんけいあさじがはら
- 『菅原伝授手習鑑』 7卷7冊 朝日 252-22 『
すがわらでんじゆてならいかのみ
- 隅田のはるげいしやかたぎ 252-210 『
 『隅田春奴女容性』 暁鐘成画 文政8(1825) 5卷5冊
すみだのはるげいしやかたぎ
- 『其粉色陶器交易』 佐橋富三郎著 白水広信画 明治6(1873) 3卷3冊 朝日 252-10 『忠臣
そのいろどりとうきのこうえき
- 連理鉢植』 松好齋半兵衛著・画 上・下2冊 252-216 『競
れんりのはちうえ
- 『伊勢物語』 暁鐘成画 7 卷 7 冊 252-206 『夏祭
いせものがたり
- 『浪花鑑』 長谷川貞信画 5 卷後編 5 卷 (欠2卷)9 冊 朝日 252-7 『日本
なにわかのみ
- 『第一和布苜神事』 並木正三著 暁鐘成画 天保13(1842) 7卷7冊 252-202 『雑
だいいちめ かりのしんじ
- 『唱歌長崎土産』 狂画堂蘆洲画 天保13(1842) 6卷7冊 朝日 252-29
りうたながさきみやげ
- 『姫競双葉絵草紙 前編』 歌川国員画 5卷5冊 朝日 252-21
ひめくらべふたばえぞうし ぜんべん
- 『文月恨 切子』 春好齋北洲画 文化7(1810) 上・中・下1冊 252-204
ふみつきうらみのきりこ
- 『百千鳥鳴門白波』 柳齋重春画 8卷4冊 朝日 252-6
ももちどりなるとしらなみ
- 『俳優浜真砂』 天保13(1842) 5卷4冊 朝日 252-11
やくしやはまのまさご
- 『宿無団七時雨傘』 並木正三著 松好齋半兵衛画 [享和2(1802)] 上・中・下 252-162
やどなしだんしちしぐれのからかさ